

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第2回） 会議録

日 時 令和2年（2020年）年7月8日（水） 14：00 開会  
16：50 閉会

場 所 深沢学習センター 第1集会室

出席者 三好委員 掛札委員 八神委員 鈴木委員 林委員  
磯部委員 内海委員 永井委員 小西委員 杉野委員

事務局 石川教育指導課長 池邊指導主事 上指導主事 佐藤指導主事  
山内指導主事 濱地指導主事 竹下指導主事 鈴木指導主事  
山美指導主事 赤山指導主事 花村担当係長 竹澤指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
  - (1) 調査員会の説明及び検討、協議等
  - (2) 今後の日程
- 3 閉会

## 会議内容

委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第2回委員会を開催する。本日の会議録署名委員を八神委員と小西委員にお願いするがよいか。

委員 よい

委員長 それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局 次第をご覧いただきたい。本日は、これまでの調査員会にてまとめられた報告書等を元に、教科用図書を調査・検討し、協議してまいる。なお、本日の半日日程と7月21日の全日日程で、全ての種目の教科用図書を調査検討し、報告書を作成していく。限りある時間になるが、ご協議をよろしく願いしたい。

協議種目の順番だが、2年前初めて採択され、今回が初めての採択替えとなる道徳を一番はじめに行い、残りは調査報告書に記載の順で行いたいと思う。

次に、会議の流れだが、種目ごとに種目担当指導主事から調査員の報告書について説明させていただく。次に、資料の確認をしながら報告についての質疑をいただき、その後、協議に入りそれぞれの教科書について御意見をいただければと思う。いただいたご意見をもとに事務局にて、調査報告書の原案を作成し、次回の検討委員会の中でさらにご意見をいただき、報告書としてまとめていきたいと思う。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

委員 なし

委員長 事務局、資料の確認をお願いします。

事務局 本日用意した資料は、令和3年度(2021年度)使用教科用図書採択検討委員会調査員会種目別調査資料、神奈川県教育委員会中学校用教科用図書調査研究の結果、学校調査票のまとめである。以上の資料は、それぞれの机上に配付している。

また、教科書見本本、令和3年度(2021年度)使用中学校教科書編修趣意書、学習指導要領については、必要に応じて見ていただけるよう左右のテーブルに用意した。以上が本日の検討委員会の資料となる。

なお、教科書展示会での「市民の声のアンケート」については、展示会が今週金曜日から、来週木曜日までの開催になるので、第3回の検討委員会にてご覧いただくようお願いする。

続いて、配付した資料について簡単に説明する。

まず、令和3年度(2021年度)使用教科用図書採択検討委員会調査員会種目別調査資料は、調査員会の報告となる。内容についてはのちほど担当の指導主事より説明させていただく。

続いて、神奈川県教育委員会中学校用教科用図書調査研究の結果は、神奈川県教育委員会が神奈川県教科用図書選定審議会からの答申を受け作成されている資料である。

学校調査票は、5月22日から市内中学校9校に見本本の巡回展示をし、調査用紙にある「共通な観点」、「教科・種目別の観点」、「本校生徒にふさわしいか」という3つの観点で各校が調査研究したものについてまとめたものである。

以上。よろしく願います。

委員長 ここまででご質問はあるか。

では、事務局からの調査員会での内容説明の前に、本委員会で作成する報告書の総合評価について、第1回の検討委員会で確認した内容を改めて確認する。

評価については、検討結果の欄に◎と○を合わせて3つまで付すこととし、それぞれの種目ごとに、協議・検討し決めていくこととする。◎や○のつくものは鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書。さらに、◎は鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書とし、それ以外の教科書については記号を付さないこととする。

以上、確認する。

委員 調査員の作成した資料を見せてもらった。各種目とも短期間にもかかわらず、各教科の特徴を的確に指摘している。

各教科・種目の専門の先生方が調査をし、まとめたこの資料を重視し、併せて県や学校からの調査内容も参考にして、鎌倉の生徒たちにふさわしい教科書を選んでいく。従って、この資料の文言について、意見交換していく中で評価をつけていく協議の進行でどうか。

委員長 今、協議の進行について意見が出たが、どうか。

委員 異議なし

委員長 他に質問・意見はあるか。

委員 なし

委員長 それでは引き続き調査報告について説明をお願いします。

事務局 では、調査資料について説明する。5月7日開催の採択検討委員会の指示を受け調査員に「県の採択方針にある調査研究の観点に基づき、種目ごとに特徴的なことを記述する」という内容を確認した。

また、調査員が個人の立場でなく、種目別に調査員会として調査資料を作成する。種目ごとに調査員全員が全ての教科書の調査・研究にあたり、全員の総意として資料を作成する、ということで報告書をまとめることとした。

5月20日、6月10日、30日の3回、調査員会を開催し、取りまとめることができた。

種目別の調査資料については、担当指導主事から説明させていただく。

委員長 では、1種目15分～20分程度を目安にし、本日は8種目程度の検討を目標にできればと思う。

まず、道徳の担当の方をお願いします。

事務局 道徳について説明する。

まず、東京書籍について説明する。

いじめ防止の観点から、いじめ問題と生命尊重に関する題材が複数取り上げられており、多面的・多角的に考えられるようになっている。

教材ごとに、「考えよう」「自分を見つめよう」が設けられ、道徳的価値について考える中心となる問いがあり、主体的・対話的で深い学びへの工夫がなされている。

オリンピックやパラリンピック、実際の中学校での出来事など、読み物教材が比較的新しいものや実際の人物を題材にしたものが多く、親しみやすい。

ホワイトボード、心情円盤など、考えや思いを可視化することで、考え、議論する活動に役立てることができるツールがついている。これらのツールにより、全体の場で意見を表すのが得意ではない生徒も主体的に授業に参加することができる。

続いて、教育出版。

主体的・対話的で深い学びにつながるよう、教材ごとに「学びの道しるべ」が設けられ、物事を自分のこととして考える際の助けになる発問が示されている。

いじめ問題に関して、多面的・多角的に考えられるよう複数の教材が掲載されている。また、役割演技をすることで、学習内容を自分事として捉え、自分の考えをふりかえる体験的な学習「やってみよう」が掲載されている。

言語能力の育成について、巻頭で「話し合いの手引き」が示されており、話し合いをとおして考えが深められるようになっている。

次に、光村図書。

巻頭に、教材を通して考えが深められるよう学習の流れが示されており、今後の学習の見通しをもつことができる。

教材ごとに「考えよう」が設けられており、関連する内容項目に対して何を学ぶのかが分かりやすい。

「広げよう 人と人との関係づくり」が設けられており、教材と関連して

幅広い知識を得るとともに、ペア活動やアンガーマネジメントが取り上げられており、相互理解に向けた豊かな人間関係を築くことができる。

巻末には、郷土に関する資料が掲載されており、住んでいる地域に興味を持つとともに、伝統文化を尊重し、郷土を愛する態度を養うことができる。続いて、日本文教出版について。

いじめ問題について複数の教材をユニットとして取り扱い、多様な教材やコラムを使用して、多面的・多角的に考えられる。

「プラットホーム」というコラムにより、他教科と関連付けることで、教材だけではできないアプローチの仕方での授業展開を行い、考えや視野を広げることが期待できる。

問題解決的な学習に適した教材には、学習する中で道徳的な問題をつかみ、その解決に向けて考える学習への筋道「学習の進め方」が掲載されており、授業の展開をイメージしやすい。

体験的な学習に適した教材には、役割演技等をとおして学習内容を自分事として捉えて考える発問、体験学習の進め方、深めるヒント、活動例の写真などが掲示されている。

続いて、学研。

巻頭の「道徳で学ぶこと・考えること」のページで、生徒が自らへの「問い」を見つけ、人間としてのよりよい生き方について考えを深めるための4つのステップが例示されている。

各教材末に、これからの生き方について考えるきっかけとなる問い「考えよう」が示されており、内容項目に関連付けて考えることができるようになっている。

「深めよう」のページは、考えるだけでなく、話し合ったことをこれからの自分の生き方につなげるところまでの具体的な提案が4つのステップに沿って具体的に示されている。

生命尊重・いじめ防止を重点テーマとする特設ページ「クローズアッププラス」の教材があり、自立した一人の人間として、他者と共によりよく生きていくために、多様な教材を用いて深く考え議論できるようになっている。

次に、廣済堂あかつき。

内容項目の「自主、自立、自由と責任」「思いやり、感謝」などは、複数教材で取り上げられている。

感動教材や名作教材を中心に教材が用意され、著名人の努力や苦悩する姿を扱った教材によって、人間のよさや気高さを感じることができる。

「考える・話し合う」欄は、生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができるような学習の流れが示されているため、明確な課題をもって学習できる。

「生命尊重」「いじめ防止・人権尊重」を最重要課題と捉え、特に関わりの深い内容項目を、年間を通じて指導する時期や回数をバランスよく配している。

最後に、日本教科書。

巻頭に「道徳科って何を学ぶの？」のページが設けられており、教科書全体に共通する道徳の学習に対する考え方や学習の流れが明確になっている。

また、今の自分を見つめるための書き込み式の「今の僕、私」に、4月当初の自分の様子を記録しておき、のちの成長した自分と比べることができる。

教材ごとに「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」が設けられ、主題に関する発問が設定されていることにより、登場人物の心情を自分事として考えることができるようになっている。

新聞記事や文部科学省の読み物教材をはじめ、様々な読み物資料を使用することで、様々な視点から考えを深めることができるようになっている。

委員長　　質疑はあるか。

委　　員　　なし。

委員長　　それでは協議に入る。質疑や意見はないか。

委　　員　　道徳は学習指導要領が前倒しで、2年前に採択された。それ以降指導要領は変わっていないが、教科書会社の編集方針などは変わっているのか。また、内容なども今使っている教科書と変わっているのか教えてほしい。

今使っているものと変わってなくて、使いやすいということであれば、評価してよいのではないか。

委　　員　　内容は現在、中学校でつかっているものと、ほとんど変わっていないと思われる。今までの流れがあるので、続けて採択することで、教員がより深く教材研究ができるだろう。

委員長　　御意見はないか。

委　　員　　道徳の教科書については保護者の立場から見ても教科として、どのようなものを選ぶのか関心が高い。ひとつひとつ読んだが、全体的に前向きで明るい内容が多いのが光村図書で、いじめなどの暗い内容もまんがなどを利用し、押しつけがましさがなかったと感じる。

どの教科書も考えようのコーナーがあったが、光村図書は見方を変えてみよう、つなげてみようなどの別の視点から考えるきっかけを与えている。また、教材の並べ方で時間の流れが学校行事とあっていてよいと思った。

委　　員　　道徳の授業をしている立場からみると、道徳は何が正しいというだけでなく、どっちも正しいという判断もあるが、東京書籍の心情のグラフが、子ども心の変化が見やすいので使いやすい。

光村は、読み物が多めで、子どもがイメージしやすく、感情移入しながら自分だったらと、主人公の思いを考えられるような作りになった教材だと感じた。

委　　員　　目次を見ていて、たとえば、東京書籍は28テーマ、光村は31テーマ、他社は35テーマある。年間35時間びっちりでは余裕がないが、東京書籍や光

村は教員が内容を膨らませることができ、子どもの発言などから、時間を増やすなどの工夫ができるかなと思った。

事務局 内容の項目については、県の調査票に掲載してある。日本教科書が 37 項目。他は 35 項目になっている。

委員長 他社の意見はあるか。

委員 学研の教科書は、他の教科とのつながりがあるのが非常によいなと思っていて。部活関係でスポーツとのかかわりも載っていて、他の教科でも扱う内容が入っているので、そこのリンクや、子どもの得意な分野を生かせるところがよいと思った。

委員 現在、東京書籍のものを使っているが、今の時代や子どもたちに内容が理解しやすいような話が多かったと感じる。実感がもてない昔の話や人名はなかったと感じている。

委員 日文のよいところはプラットフォーム。いろいろな問題にふれていて、それについて自分がどう思うかと問うている。国語とは違い、自分がどう考えるかという明確な問いかけがあると感じる。

学研は、現在活躍中のスポーツ選手を題材にしているが、時間がたった時にどうかなという心配はある。

委員 東京書籍の題材の新しさは魅力だと感じる。東京書籍と教出と光村は、郷土愛、地元のことを扱っているのが大事なことはないかと感じた。

県の調査では杉原千畝の墓が鎌倉市にあるなど、神奈川県のを東京書籍では多く扱っていたことはプラスだと感じる。

委員 有名人は文教出版が多く載っていてよいのかなと思った。学研が載せている中学生向けの怒りのコントロールやバロメーターなどがよいなと感じた。

委員 あかつきには別冊のノートがついてる。これについては調査員から意見があったか。

事務局 調査員の中ではノートについて、あまり用意されすぎていると逆に使いづらいとの意見があった。他の発問や振り返りの形を工夫したいときなど、実情に合わせた対応がしづらくなるとの意見があった。

委員長 日本教科書はどうか。

委員 日本教科書は目次の部分で内容項目ごとになっていて目次から探しやすいなと感じた。

委員長 ひととおり意見がでた。では、ここでまとめに入る。委員のご意見のなかでは、東京書籍、光村出版、学研の3社かと思う。その中でも意見が出ていたのが東書だったが、◎は東書でよいか。

委員 よい。

委員長 では、◎は東書、光村と学研を○とする。  
続いて国語の担当の方お願いする。

事務局 国語について説明する。

はじめに、東京書籍について。

本編・基礎編・資料編で構成されており、基礎編では学びを支える言葉の力として、論理的、文学的、対話的な力のつけ方が紹介され、資料編では、理解を深めたり学習を発展させたりすることのできる資料があり、活用して本編の学習が進められるように工夫されている。

「中心を明確にして話そう」では、話し合い活動の進め方やまとめ方など、対話的な学習の手順を1年生の学習時に具体的に掲載して、その後の学習活動の基盤をつくるよう工夫されている。話すこと聞くことの単元は、各学年に3回ずつ系統的に設定されている。

次に、三省堂。

「領域別一覧」において、付けたい力を具体的に表記することで、どんな力をつけるために学んでいるのかが視覚的に分かりやすく、生徒が学習の見通しと振り返りに役立てることができるように工夫されている。

「私の本棚」や巻末資料の「読書の広場」において、教材に関連したものだけでなく、「生き方」「心」「言葉」「自然科学」「平和」「文化」と幅広い分野の読書教材が掲載され、生徒が読書に興味を持つことができるように工夫がされている。

資料編の、「社会生活に生かす」では、効果的な話し合いの仕方が載せられており、「情報を活用する」では、情報の収集の仕方など、思考力・判断力の育成につながる、学習や日常に生かすことができる例が多く掲載されている。

「学びの道しるべ」では、「目標」「内容を整理する」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」と学習の道筋が示され、学習の過程を確かめながら振り返ることができる構成になっている。

続いて、教育出版。

「ベンチ」など、心の成長に資する作品が教材として取り上げられ、生徒が思考を深めて読むことが期待できる。また教材と関連して読書活動が充実するように工夫されている。

SDGsをテーマにした単元等、社会が直面している課題に対する、幅広い分野の教材が取り上げられている。

「子どもの権利」や「水の山 富士山」など、道徳や理科、社会など他教科とつながる教材を取り上げている。

最後に、光村図書。

現在活躍する作家の作品や、ノンフィクション作品などを載せ、読書の意欲を高める工夫がされている。また、実生活に即したメディアリテラシーの力が身に付くように、情報の性質や捉え方、活用の仕方、情報社会の課題を各学年で取り上げている。

各单元の中に出てくる学習を通して身に付けるポイントが書かれた「学習の窓」の内容や「思考の地図」などの資料が巻頭、巻末にまとめてあり、活用しやすくなっている。

話し合い活動やスピーチなど視聴覚教材が有効な単元に QR コードが載せられていて、web ページを参照することができるようになっている。

委員長 質疑はあるか。

委員 QR コードが掲載されているのは光村図書だけか？

事務局 web ページにとべるように紹介されているのは他社でもある。実際に子どもたちが話し合い活動をおこなっている様子を動画として観ることができるというのが、光村図書の特徴だということだ。

委員長 他にないか。  
それでは協議に入る。

委員 学校の集計表では、点数の低い教育出版に注目している。どの教科書も、巻頭に見出しがある。その中でも教育出版は SDGs が特徴ではないか。子どもの多角的に捉える視点を考えると斬新である。ここは推せる部分ではないかと思う。

委員 それぞれの良さがある。横断的な学びや子どもが学びを発展させていけるとか、主体的で対話的、深い学びを通してとか、国語の学びを達成するために、子どもの実生活と照らした教材などがあるとか。

自分は、三省堂が子どもに考えさせながら、子どもの目標に近づけるものがあると思う。それを通して自分の生き方を考え、自分事にせまっていけるのではないか。

光村もメディアの話しがあり、現代の社会と照らして、子どもがどんな風に迫っていけるか考えるのによいのではないかと思った。

委員 構成は4社とも似ている。主体的、語彙的な面など、各社の特徴があると思うが、横並びで甲乙つけがたい。そうすると、題材が大きい。鎌倉の子どものためには迷うところがある。QR コードは魅力。

委員 構成は似ている。学びの見通しでいうと、教出、東書、三省堂は、この部分で力をつけていくんだなということが、子どもたちに分かりやすい。

委員 東書は保護者目線だが、伝統的な文もある。三省堂は、グループディスカ

ッションが充実している。また、話し言葉と書き言葉の違い等が書かれている。光村はなぜ、学ぶのかとか、なぜ言葉が大切なのかが書かれている。教育出版は、由比ヶ浜のことが書かれていて、身近な教材を扱うことで、子どもに興味を引き出している。

委員 三省堂の資料編について、情報活用が多くページで書かれている。引用の仕方など、細かく記されている。資料の使い方を学べるという点で魅力。教育出版のSDGsが魅力。由比ヶ浜のクジラのことが書かれていて、子どもが興味をもって取り組める。

東書は、中学校1年生で文字が大きくなっていって、小学校から中学校へスムーズに入っていけると感じている。

委員 三省堂は参考書のように感じた。この一冊で勉強ができる。副教材とか買わなくても済むという良さはある。

委員 国語の授業を通して、読書活動、活字離れをしている子どもにとって、どの読書コーナーがよいのか見ているところである。

委員 読書活動だと、個人的には読書を楽しむという意味で光村がよい。

委員 インターネットとかアンケートとか、インタビューの仕方とか、社会に出たときに基礎が学べるから、三省堂はよい。竹取物語は、全ての教科書に出ているが、光村が楽しく読もうという形で書いている。光村は面白いところを扱っていて、他は天に行くところ、光村は求婚して、うそをついて、他のものをもってくる場面。捉え方が面白い。

委員 三省堂だけ、意図的に、他者との関わり、コミュニケーションを図るための、他者への意識を感じた。

委員長 他に意見はあるか？  
まとめに入る。3つまでということを考えて、三省堂、光村、教出で、◎が三省堂になるかと思うが。

委員 よい。

委員長 では、○が教出、光村、◎が三省堂ということで報告したいと思う。続いて書写の担当をお願いします。

事務局 書写について説明する。  
まず、東京書籍。  
単元の導入である「見つけよう」の例示は、文字を正しく書くための改善点が具体的で分かりやすいものになっており、生徒が課題をもって学習に取り組むことにつながる。

「文字のいずみ」では、豊富な資料や写真を用いて、文字文化について生徒に分かりやすく取り上げている。「楷書と行書の使い分け」では、日常の場面設定や例示が生徒にとって身近なもので分かりやすく、場面や目的に合った書式を選択・判断する力が身に付く。

教材文字と書き込み欄を上下に配置する教材があり、利き手に関わらず、教材文字が見やすいような工夫がある。

次に、三省堂。

各学年の学習のまとめである「やってみよう」では、今まで学習してきたことを生かして書くことができる課題が設けられている。

篆刻に関する内容や、日本と中国の受け継がれてきた筆跡を紹介する発展教材を掲載することで、学びに広がり生まれ、高等学校書道との学びの連続性を意識することができる。

日常の書式として便箋、封筒、はがきの書き方、時候の挨拶、頭語と結語、送り状、のし袋、願書、原稿用紙の書き方など資料編があり、書写での学びを日常に生かすことができる。

各単元の学習の流れが、基礎的な知識から反復練習、学習内容の活用と、單元ごとに段階的な学習ができるように構成されている。

続いて、教育出版。

目標、考えよう、生かそう、振り返ろうと学習の進め方が、具体的に分かりやすく示され、生徒が「文字を書く」場面を想起しやすいので、今、何を学んで何を身につけるかを理解しながら学習を進めることができる。

書写の授業で「対話的な学び」につながるように、話し合い活動で用いる書写の学習用語が具体的に例示され活動の幅が広がる。

表紙は、絵に竹取物語、文字に高野切古今和歌集を使用することで、日本文化を感じさせるデザインであり、判型の横幅を広くするなど生徒が使いやすいように工夫されている。

大筆、小筆、ボールペン、鉛筆、筆ペン、万年筆、フェルトペン、サインペンと場面によって適した筆記用具を示すアイコンが記載されており、学習によって生徒が使用する筆記用具を選ぶことができる。

最後に、光村図書。

生徒の学びが広がるような動画資料として、筆と紙づくり工程の動画、また、筆使いの動画など、学習活動ごとにQRコードが多く示されている。

各学年の「季節のしおり」では、同社の国語の教科書とリンクさせた教材を取り上げ、国語と一体的に扱うことで、学習活動の幅が広がる。

見やすさ、読みやすさにこだわったユニバーサルデザイン書体の特徴や活用について具体的に取り上げているので、多様性の理解につなげることができる。

別冊「書写ブック」をご覧いただきたい。紙質の強度が高く、鉛筆で書きやすく、硬筆の反復練習用の課題やまとめテストで、学びを深める工夫がなされている。

委員長     それでは質疑のあるかた。

- 委員 書写の時間は、実際国語の中でどのくらいの時間があてられているのか。
- 事務局 指導要領に時数が示されているが、1学年、2学年では、20単位程度、3学年では10単位程度となっている。
- 委員長 他にないか。それでは協議に入る。
- 委員 東書は、巻末に活用ブックがあり、レポートのまとめ方、メールの打ち方などが示され、資料として使いやすい。混在するより扱いやすいと感じた。豊富な文字文化、きれいに書くだけでなく、変遷など示されていて、漢字に対しての興味が深まる工夫がされているのではないかと思った。
- 委員 光村は、QRコードがあることで、時間がない中で取り組むことを考えると、自分たちで学習が進められるのがよい。あとはユニバーサルデザインもよい。
- 委員 数名から意見があがった光村だが、限られた時間の中で教科書を進めるとなると、自分で学んで進められ、やりやすいのがよい。自分でできる練習コーナーが設けてあるのがよい。書写を学ぶとき何を目的に、何をモチベーションにするかが重要である。どの教科書も年賀状、手紙の書き方があるが、ほとんど書かないようになっている。その中で、願書の書き方があるのが光村、教出である。3年生は、願書は必ず手書きだと思うので、願書を書くという題材は、きれいに字を書こうという目的につながる。だから、光村と教出がよいと思った。
- 委員 光村がよい。内容の下の部分にコラムページがあり、パスポートの文字等日常にある文字についてのことを紹介している。
- 委員長 三省堂はいかがか。
- 委員 三省堂も、書く姿勢を動画で見て学べる。
- 委員 それぞれの会社が課題意識、主体的、発展的な学習等の言葉が出てきていたが、実生活でどれだけ、生かされるかということが、教出と光村が多いと感じた。特に国語の授業とつながっていけるという中で、教出は1時間で、本の帯づくりがあり、ブックトークの授業で使う等、国語と関連付けることができ、使いやすいと感じた。光村に関しても、QRコードで自主的に学んでいけると感じた。
- 委員 三省堂は、光村よりシンプルで、教員の指導が入れやすい。光村の丁寧な作りは、子どもが作業している場面でタイムラグが出たとき、学びの道筋が分かりやすいと思った。
- 委員長 他に意見はあるか。

まとめると、○を3つつけるなら、東書、教出、光村。◎は光村でいかがか。

委員 よい。

委員長 では、続いて地理の担当の方をお願いします。

事務局 地理について説明する。

まず、東京書籍。

各章のはじめに、グループで協力して活動を行う「みんなでチャレンジ」が設けられている。資料を調べ、その資料から分かることなどを話し合い、生徒自身の考えなどを説明し合う等の活動を行うことで、対話的な学びを行うことができる。

各地域の最後に、各地域のこれからの姿や課題を考えるような、現代的な諸課題が提示されている。生徒が今後の諸課題について考えることができるよう工夫されている。

災害を単に事実として捉えるだけでなく、災害時の公的機関の動きや支援など、広い視点で捉えることができるような図が掲載されている。

日本の領域の「領土をめぐる問題を抱える島々」では、竹島や北方領土について、大きな写真が掲載されており、それぞれの島でどのような漁獲があるかなど資源を中心とした特色が詳細に記載されている。

次に、教育出版。

「日本の領土をめぐる」では、北方領土の歴史的な流れを表に示しており、平和的な解決を目指すと記述することによって、これからの自分たちの問題として捉えさせる工夫がなされている。

「世界の地域構成」の日本と世界のつながりの導入にタピオカを扱い、生徒が関心をもちやすいよう工夫されている。

興味関心を広げるコラム「地理の窓」が多く掲載されている。また、折り込み地図の「地図を活用しよう」が掲載されるなど、生徒の興味関心が高められるコラム等を多数設けている。

各州の導入ページに掲載されている様々な写真は、既習事項も振り返ることができるようになっており、これからの学習の関心を高めることにつながる。

続いて、帝国書院。

巻頭にSDGsの目標が示されている。また各節の振り返りではSDGsの視点で考える課題が設定されており、教科書1冊を通してSDGsを意識することができる。

各章の振り返りで、学習課題や節の問いを考察し、さらに持続可能な社会の実現について考えさせる工夫がされている。

鎌倉市のハザードマップが掲載され、鎌倉の中学生が自分の地域の防災について考えられる内容となっている。

地図中にも見開きページ内で使用されている写真の位置が示されている。

最後に、日本文教出版。

振り返りの「アクティビティ」や「チャレンジ地理」で具体的な課題を自ら調べたり、クラスで議論したりする活動を通して、学習内容の理解をより深めることができる。

「釜石の奇跡」が紹介されており、災害時に生徒自身が主体的に行動することの大切さに気付けるように工夫されている。

「地域調査の手法」について多くのページを割き、具体的な調査手法を身に付けられるように工夫されている。

世界の諸地域、日本の諸地域について、導入ページに大きな写真とクイズが配置されている。

委員長 質疑のあるかた。

委員 なし。

委員長 それでは協議に入る。

委員 帝国書院は、現行の教科書で使い慣れており、バランスがよいと感じる。また、一冊通してSDGsが取り上げられている。地図帳も同じ色合いで見やすい。

教育出版は、シンプルな作りとなっているが、コラム等の題材がおもしろい。また、東京書籍には、表やグラフなどの資料が多いので、資料集を使わなくても授業ができるところがよい。

委員 帝国書院は、鎌倉市のハザードマップが掲載されているが、調査員の反応はどうであったか。

事務局 他者もハザードマップを掲載しているが、帝国書院は、鎌倉市のハザードマップを掲載しているので、生徒の学習意欲が高まることがよいという意見であった。

委員 東京書籍は、地域の学習の終わりに必ず振り返りがあり、知識の定着ができる他、さらに発展として、考え説明する力をつけるようになっている。教科書から知識をつけるだけではないのがよい。

帝国書院は、地図がはっきりすっきりしていて勉強しやすい印象である。

委員 日本文教出版は、単元の導入でクイズを出し、生徒に今後の学習内容について興味を持たせるようになっているところがよい。

委員 各者を比較する中でそれぞれの良さがある。対話的な活動やコラム、地域調査が充実しているものもある。過去を振り返って学習し、未来につなげる考え方を導けるのが東京書籍であると考え。振り返りで知識も定着できる。

委員 帝国書院は、写真や地図が見やすいのが大きな利点である。

委員 帝国書院は、目次の部分で学習の仕方や地理的な見方考え方を学ぶことができる。生徒が教科書を使いながら、「こんな風に勉強することができる」とイメージを持つことができる。

日本文教出版のコラムとして取り上げられている釜石の奇跡については、釜石の中学生が実際に行ったことが掲載されており、生徒が防災を身近に感じることができる。また、コラム本文に、ハザードマップを「鵜呑みにしてはいけない」という記載がされており、生徒自身の行動を考えさせる内容となっている。

委員 東京書籍は、表やグラフが多いが、写真が少なめであると感じる。  
帝国書院は、まず事実が記載され、その根拠が説明されており、本文を読むことで生徒が自ら考えて学ぶことができると感じる。

委員長 まとめると、帝国書院が◎で、東京書籍、教育出版が○ということでしょうか。

委員 よい。

委員長 それでは時間になったので本日の検討についてはこれで終了とする。次回は、残されている種目についての検討を行い、さらに報告書を作成することになる。報告書については、事務局に本日の協議分をもとにその取りまとめをお願いしたいがいかがか。

委員 異議なし

委員長 では事務局に報告書の原案を作成していただき、次回はそれをもとに検討を進めることとする。

委員長 閉会の言葉  
事務局から連絡をお願いします。

事務局 本日の資料については事務局で保管する。  
第3回については、検討が終了していない種目の検討及び、事務局から報告書原案の提示を行い、種目ごとに総合評価と文章表現の確認を行っていくので、引き続きお願いしたい。

---

会議録署名

令和3年度(2021年度)使用教科用図書採択検討委員会(第2回)

委員長(三好 晃彦)

会議録署名委員(八神 陽介)

会議録署名委員(小西 美絵)